



新任教授のあいさつ

琉大医学部への道

琉球大学医学部形態機能医科学講座 生理学分野 教授 松下 正之

平成21年6月1日付をもって、小杉忠誠教授の後任として生理学第一分野を担当するようになりました。私の、琉球大学医学部までの道のりを簡単に紹介させていただきます。香川医科大学を卒業して精神神経科の大学院に入学し、統合失調症などの研究をしたいと希望していたのですが、人生、自分の意志とは関係なく違う道に進んでいくものです。大学院で、基礎実験手技を習得するために生理学講座に修行に出されていました。基礎研究をするうちに研究が面白くなり、いつの間にかカナダのカルガリー大学に大学院交換留学生として留学することになり、足を洗うことができなくなりました。その後、ロックフェラー大学に留学し、ニューヨークでの研究生活を満喫しました。留学していた研究室主催者のポールグリーンガード教授は、ドーパミンシグナル研究で2000年にノーベル医学・生理学賞を受賞したので、世界のトップレベルの研究室を経験することができたのは、私の研究生生活の貴重な経験になりました。帰国後、岡山大学医学部生理学講座で教育研究活動を行っていましたが、基礎研究の成果を薬の開発によって発展させたいとの思いが強くなり、三菱化学生命科学研究所の公募研究に応募し採用されました。これで、私の夢が叶う研究環境・資金が手

に入ったと思い研究活動に邁進していたら、いきなり研究所を解散すると宣言されてしまいました。まさに、自分の意思とは関係なく物事がすすみます。研究所の所長より、「研究所の解散は、当事者にとっては大変なことだけれど、あの時研究所が解散したからこそ、今の自分があると思えるよう頑張ってください」との前向きな言葉を頂きました。幸運にも生理学第一分野の教授に採用していただきました。

沖縄に教授選考の面接で来たときに、高知の足摺生まれの私には空気感が懐かしくて、この土地で教育・研究活動ができれば幸せだろうと思っていました。着任して、ほぼ半年が経ちますが気候も快適で故郷に帰ったような感じがして、非常にしっくりきています。民間の研究所から大学に戻ると、学部学生、大学院生など活気に満ち溢れています。今後は、琉球大学医学部で学生を教育指導していく立場になりましたが、日本の医療に貢献できる人材を育てなければならないと考えています。また、研究者の立場からは、私の研究に興味を持ち、ともに研究活動を行い、私の研究を引き継いでくれる人材を一人でも多く育て、世界に情報を発信できるように頑張りたいと思っています。ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。